

17. 《人口増加率が一番高かった武蔵国》

歴史人口を分析すると、日本は、奈良・平安時代を通して、世界主要国中、人口増加率が最高レベルでした。国内では、畿内の人口が減少し、関八州などの人口が増加。中でも武蔵国が飛び抜けて人口増加しています。

では次の数百年は、どのように推移するのでしょうか？

地球寒冷化に伴い、モンゴルが草原を求めて東西を駆け抜けます。そしてモンゴル帝国が成立。しかし東西の交通網が感染ルートとなって、ペストがユーラシア大陸を席巻し、人口が大幅に減少します。

一方、日本は、モンゴル勢力を撃退し、人口増加率は、加速度を増して高くなっていきます。そして1600年時点で、700年に比し、最も人口を増加させた国となりました。

ただ、人口増加率の国内分布は、畿内が盛り返すなど西高東低となっています。これは、畿内から、農業分野だけでなく商工交易分野でもイノベーションが始まったからだと考えます。東国は、この動きに遅れたといえるでしょう。

また、寒冷化は、海面の低下を引き起こしました。これによって、関東、大阪、濃尾、越後の各平野とも、干拓適地が増加したと考えます。そして輪中を作って濃尾平野の干拓に成功した東海地方出身者によって、全国統一が達成されたと推察します。

日本史では、源平合戦に続いて、元寇、建武の新政、南北朝、応仁の乱、戦国時代など（注）と戦いが続き、また「無常」や「わびさび」の観念が生まれたと学びます。

しかし逆説的にいえば、人口増加を支える基盤の新たな利権を巡る戦いであり、深化した精神文化を庶民まで享受できるようになったということです。

それでは、12世紀から17世紀、武蔵国とその周辺において、どのようなエピソードが残されているのでしょうか？ 次回から点描してまいります。

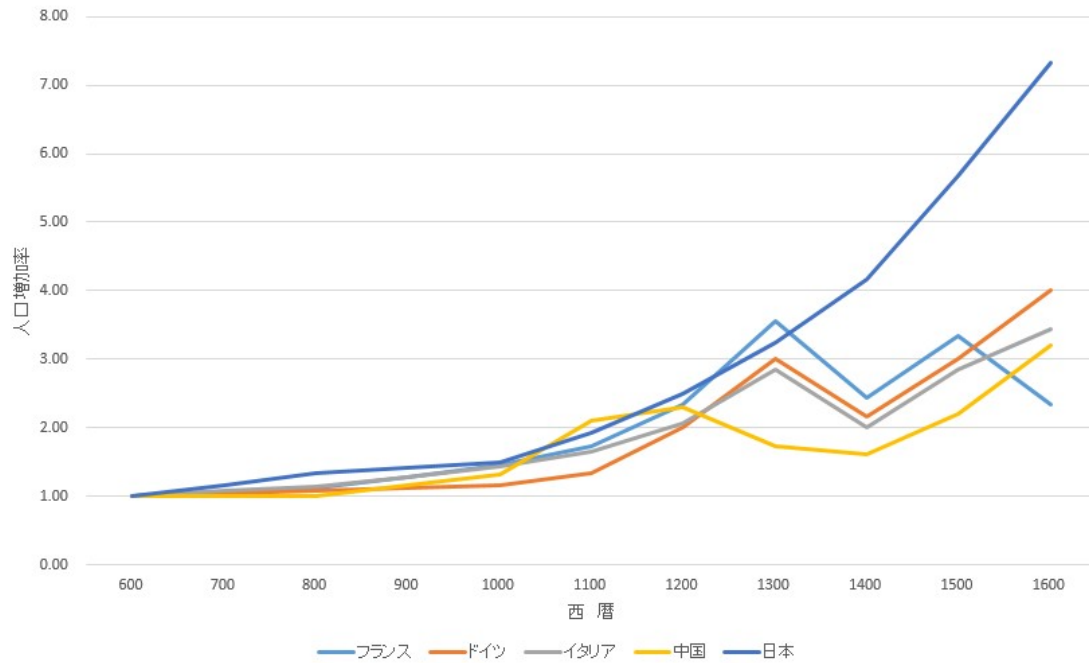
注：主要な戦い

- ① 元寇：鎌倉時代中期の 1274 年（文永 11）と 1281 年（弘安 4）に、元が日本に來攻した事件。「文永・弘安の役」ともいう。
- ② 建武の新政：1333 年（元弘 3）、後醍醐天皇が、鎌倉幕府を倒し、天皇自らが政治を行った。
- ③ 南北朝：1336～1392 年、朝廷が南朝と北朝の二つに変わった時代。
- ④ 応仁の乱：1467～1477、八代将軍足利義政の継嗣争い

写真 ①世界の歴史人口増加率推移（McEvedy & Jones(1978)による各地域別人口推定値をもとに、細見が作成）、②日本の歴史人口比推移、③関八州の歴史人口比推移（②③は、鬼頭宏(1996)による国別推定人口をもとに細見が作成）、④田畑面積の推移（日本古代における農業生産と経済成長 高畠正憲 2012 をもとに細見が作成）

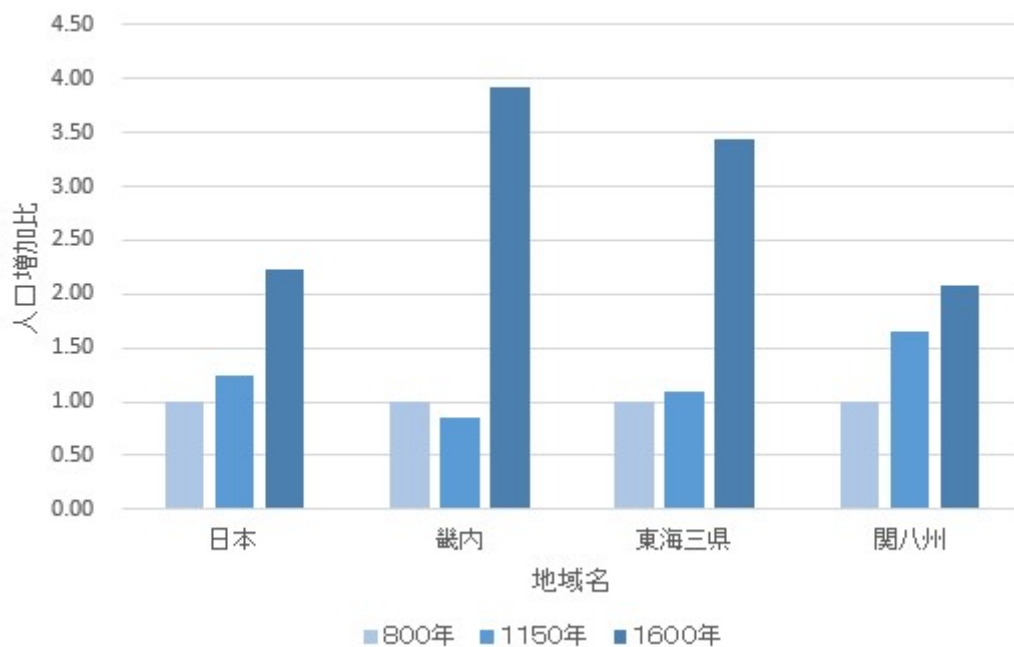
①

主要国の歴史人口増加率



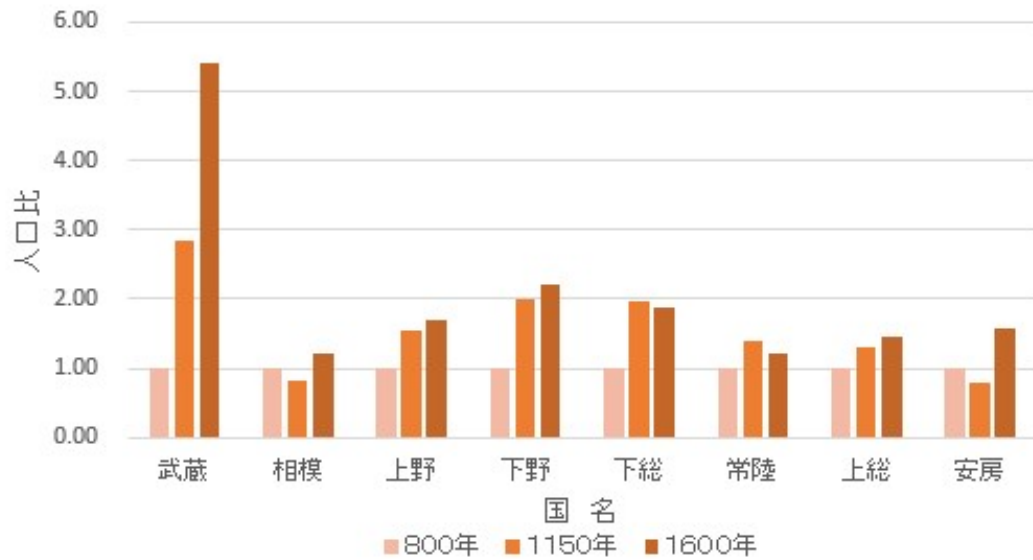
②

日本の歴史人口比推移



④

関八州の歴史人口比推移



④

田畑面積の推移(単位:町)

